



祝祭日には



を掲げましょう



◎猟友会のメンバーと神室山で熊を捕獲（4月27日）

キラリ 金山びと

| No.2 |



壮大な自然と動物たちとの 駆け引きを楽しむ

佐藤 和平^{わへい}さん (64) = 板橋 =

「狩猟の醍醐味は、壮大な自然と動物たちとの駆け引きを楽しむこと」そう語るのは板橋地区の佐藤和平^{わへい}さん。最上猟友会金山分会の会長を務め、狩猟歴は、34年になります。佐藤さんが狩猟を始めたきっかけは、義父さんの狩猟に付いて行ったこと。昔から、キノコ採りや山菜採りで山に行くことが多く、おもしろそうだなど興味を持ち、免許を取得したそうです。昔は、狩猟の鉄砲を持っている人も多く、近所の人たちと山に入って行って、ウサギなどを狩っていました。「狩猟は、動物たちの命をいただいているので、雑に扱ったりは絶対にしない。獲物に対して敬意を払う心を忘れずに、狩猟で得た獲物は無駄にしないように、美味しく調理している」と話してくれました。




狩猟を趣味としたメンバーが集い、組織化された猟友会。クマや猪などによる鳥獣被害があった場合は、付近に罠をしかけたり、駆除を行います。猟友会金山分会は現在13人で活動しており、神室山での熊調査、鷺などの駆除、また射撃の大会などを通して、腕をなまらせないように活動しています。「鉄砲を扱う分、狩猟を始めるまで家族に反対される方がとても多い。でも猟師は、山や自然が好きの人にはとても魅力的なものだと思う。狩猟免許を取得した後にも獲物をしとめるには、経験や勘が必要となってくる。もちろん、山に対して知識も深めなければいけないし、日々勉強である」と思いを語ってくれました。自然と共に、持続可能な生き方をしていくため佐藤さんをはじめ、猟友会の方たちは大切な活動をしてきています。

編集 後記

▼あつという間に12月。大堰の鯉も冬に向けて暖かい場所へ。編集集中である11月中旬現在、降雪はありませんが昨年は「雪がなくて楽だった」という声もあるものの、スキー場や冬の観光業にとっては死活問題。今年ほどのくらい降るのか気になるところです。

今年、コロナウィルスの影響で何をすることも制限がかかってしまい、こんなはずじやなかったという方も多いのではないのでしょうか。終息はまだまだ先になりそうです。引き続き手洗いうがいを徹底して元気に新年を迎えましょう。

金山町の人口は、5,277人 (10月末現在)

	男性	2,585人 (-4)	▼10月の異動
	女性	2,692人 (-2)	出生 0人
	世帯数	1,750世帯	死亡 8人
			転入 5人
			転出 3人